

Title	日本古泉學書目解題
Sub Title	
Author	田中, 萩一郎(Tanaka, Suiichiro)
Publisher	三田史学会
Publication year	1928
Jtitle	史学 Vol.7, No.2 (1928. 7) ,p.99(253)- 130(284)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19280700-0099

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

日本古泉學書目解題

古人の隨筆中、古泉に關する記事少からずと雖も、詳しく明治三十四年刊行太田爲三郎氏の日本隨筆索引貨幣の條に出でたるを以て今姑く之に譲る。

明治三十八年二月二十八日

金嶺識

作にや一巻の錢譜あり。江戸の僧慈海の古錢考數卷あり。又爰に化蝶類聚集と名くる珍書あり。乃ち之を謄寫すとあり。大日本貨幣研究會雜誌第九號所載秋風園の泉家略歷には、天王寺屋大阪の人、化蝶類聚を著す。その藏泉は富山侯の手に入るとあり。國書解題は本書を載せず。

化蝶類聚

天王寺屋長右古事記衛門撰

苑左

寫本 三冊

古今錢考 室宜真著寫本

二冊

安永七年（西紀一七七八年）秋七月自寛舍主人と署せる後序あり。中に我朝に於て古錢を遊びし初は、東山殿の頃よりと聞けり。貞享中何人の

義塾藏本は榎本文城が佐野英山に贈りしものなり。古文錢、大唐錢、五代錢、大宗錢、大元錢、大明錢、僭偽錢、外國錢、日本國錢、刀布奇錢、未考錢の十二品に分ちて説明しあり、次に錢圖上下を添ふ。

洪遵泉志

十五卷 二冊

元祿十年丁丑正月京都東洞院通夷川上町林九兵衛の反刻本あり。

畫錢圖錄 東都沙門慈海撰

一卷 一冊

我が國古來の畫錢百八十六種を圖錄したるものの、紙數十二枚、末に「庚申晚冬刊」とあり。又首に「寛政十二年刊」とあり。庚申は即ち寛政十二年(西紀一八〇〇年)なり。慈海は江戸上野東叢山中凌雲院の僧なり。元祿九年丙子十一月十六日(西紀一六九六年)入寂す。

化蝶類苑 依平正甫撰

二冊

モンロー日本之貨幣には傳へ云ふ、越中富山の

大名天和年中大阪の天王寺屋長左衛門に託して化蝶類苑を撰ましむとあれども、大日本貨幣研究會雜誌第九號所載秋風園の泉家略歷には、松平利之諱正甫、富山の城主從四位下大藏大輔なり、化蝶類苑を著はす、寶永三年四月卒すとあら。なほ右雜誌第一號より暫らく化蝶類苑の反刻を登載し、同誌記者は之を以て元祿年間富山の松平正甫氏所著となせり。天和は西紀一六八年乃至八三年、元祿は西紀一六八八年乃至一七〇三年なり。徳川實紀に據るに、松平正甫藩翰譜前編には、利昌とありは、前田利常の第二子にして、秀忠徳川第二女を母とし、寛永十六年越中國百塚十萬石の地に分封され、萬治三年富山に徒りたる松平淡路守利次の第二子なり、即ち綱紀前田の徒弟なり。初は利勝改て利之後正甫と改む。寛文二年五月十日初見し、十二月廿七日前田家譜爵給はり掃部頭と稱し、八年十二月廿七日前田家譜七年從四位下にのぼり、大藏大輔に改め、延寶二年九月四せりと云ふ。即ち西紀一六四九年より同一七〇

六年まで在世せるなり。天心日菅正甫院と號す。富山の大法寺に葬る。前田氏家乘には、長岡に葬る。謚號を正甫院殿前大府侍郎天心日菅大居士と曰ふとあり。正甫慶安二年八月二日富山に生る。元祿三年正甫始めて富山商人をして反魂丹を製し、諸國に鬻がしむ。十五年九月元祿藩士の子弟に命じて、植物及礦物を蒐集せしむ。(以上前田氏家乘、家譜、但越中史料に據る)。前田正甫畫像朽木氏所藏のものを復寫し「越中史料」卷二。七三二頁に收む。

本朝寶貨通用事略 新井君美著

明治十六年印行『五事略』の中にある。本朝古來の金銀銅貨の制定沿革等を記し、正徳五年より寶永五年までの間にその外國に入りし總數を考へ、末に三貨並に鑄錢次第の年代表を添へたる。國書解題に本朝寶貨通用事略、并に寶貨事略を二種とし、且その寫本に付てのみ紹介せるは粗漏なり。三貨圖彙附錄第六に收む。新井君美は江戸の人にして、在中また濟美と字し、白

石と號す。木下順庵の門に學び、強記該博、元祿六年々三十七、徳川家宣の甲府邸に召されて侍講となる。寶永六年家宣侍講となるに及び、帷幄に參し、獻替する所頗ぶる多し。從五位下筑後守に叙せらる。享保十年(西紀一七二五年)五月十九日歿す。年六十九、淺草本願寺内報恩寺に葬る。

世寶錄 姉尾柳齋撰

五冊

モンロー日本之貨幣附錄書目の中に、寶永の發行とあり。瀬尾柳齋は享保年間の大家にして、延寶元年浪花に生ると。寛永泉志卷一、八枚表に見ゆ。本書は國書解題に見えず。謄寫版本、寛永錢譜に、瀬尾柳齋享保二十年十一月の記を引證せり。

板兒錄 姐尾柳齋撰

十五冊

モンロー日本之貨幣に享保年中發行とあり。享保十一年より元文三年まで十二年間に亘りて、古錢に關して何かと隨筆體に記せるものなり。

妹尾柳齋諱は桓本映年又桓翁と號す。通稱丹波屋彦兵衛（續化蝶類苑には阿波屋彦右衛門）寛文十二年の出生也。

古今百錢圖 中谷顧山撰

一卷

古今種々の貨幣を圖錄したるものなり。享保六年辛丑（西紀一七二一年）に成る。國書解題に、

和漢孔方圖 中谷顧山撰

二卷

註に觀堂主人は則中谷氏也堂號を觀霞堂と云と見ゆ。又註に「本邦にては文明長享の頃より世人弄ぶと雖も、書を遺さざれば事實傳來をしるものなし。貞享元祿の頃盛に弄んで今世此道の達人尤多し。委き事は師授秘傳書に見えたり」とあり。

『百錢圖』一卷中谷顧山、古錢圖譜なり、天保六年乙未の自跋中に「此の書は弄錢初心の爲に錢文筆體世に多きもの百品を探り、又多少を別ちて五等に位を定む」云々といへり」とあるは、本書の偽版なる可し。若くば、天保は享保の誤植か。中谷顧山享保十九年に死す。享保九年甲辰本書の版木池魚の災に罹る。（板兒錄）

弄錢記 中谷顧山撰 紿本

一冊

慶應義塾の藏本は、中谷の門人看雲子が享保七年正月に註釋を加へたるものにて、大津の中島

礙石の秘藏に係り、珍らしき寫本なり。本文の初に、有_{ナカタニ}西都君子問於觀堂主人曰云々とあり。

珍貨孔方鑑 中谷顧山撰

一冊

本文十四枚、和漢古今の通貨錢を模寫したるもの、卷末に誌して「世に錢を圖するもの多しと雖も、皆錢名を知て錢體を知らず。故に弄錢家漸く疑を生ず。今逐一正錢を模し、分つに十等を以てす。是れ錢文の尊卑を顯すに非ず。流行の多少を探るなり」と。享保十三年戊申（西紀一七二八年）前川修の跋を添ふ。板兒錄に據るに、本書は戊申五月の發行なり。

本文十四枚、享保己酉中秋日浪華樋口背山の題言并に享保十四己酉春浪華中谷顧山の自跋あ

り。享保十四年は西紀一七二九年なり。國書解題には本書を載せず。顧山の自跋に、津逮祕書の泉志、三才圖會の珍貨編、正說郛の草氏泉譜、類要事林の貨寶篇、文献通考の錢幣考を參照せりとあり。又冊尾に校正者として、湖南の中島礙石、華洛の山田志觀、急見其丸、和州の内田方井、服部雌雄、浪華の池内龍子、豊田滿昆、谷木柳枝、船津李山、豊島東鳥を舉ぐ。

補增 珍貨孔方鑑

下に記せるライデン大學の藏本、本文十三枚のものは即是。

國家金銀錢譜 青木敦書撰

寫本 一册

寫本なり。古今金銀錢を圖し、鑄造年代及び各種の量目等を記す。延享三年丙寅十二月六日（西紀一七八八年）の自序に「元文中嘗て國家金銀（錢字脱か）譜一卷を著して官へ表りその副本を家に藏む。不幸にして今春の火に罹りて焜燄となるによつて故紙の中に草稿の残りたるありし

國家金銀錢譜續集 青木敦書撰

一册

前記國家金銀錢譜の續集なり。寶曆八年戊寅九月（西紀一七五八年）に成る。

錢幣略記 青木敦書撰

寫本

二卷

寫本なり。周より宋に至るまでの錢幣の沿革を記したるものにして、「文献通考」により諸書を参考して作れりと云ふ。元文四年（西紀一七三年）の自序あり。三貨圖彙附錄五にも之を收む。

文藏と稱し、昆陽と號し、後人甘薯先生と稱す。武藏國の人、嘗て京師に遊びて伊藤東涯に學び、元文四年幕府に仕へ、終に書物奉行となる。著書極めて多し。明和六年己丑十月十二日（西紀一七六九年）歿す。年七十二。下目黒龍泉寺に葬る。本立院道譽生心と法號す。慶應義塾藏寫本は、本書を貴志忠美の増補せるものなり。

和蘭貨幣考 青木敦書撰
國書解題昆陽漫錄の項に記せる青木敦書の略傳
に見ゆ。

和泉考 寫本

一冊

青蚨錄 青木敦書撰か(不忍叢書一二)
正徳元年五月、天文十一年四月の通貨に關する
法令をはじめ、貨幣に關する考説を掲ぐ。

續化蝶類苑 宇野宗明撰

二冊

秋風園の泉家略歷に宇野宗明は大阪の人、俗稱
を奈良屋九郎兵衛と云ふ。安永三年甲午八日死
す(西紀一七七四年)。安永二年朽木昌綱の求に
應じて續化蝶類苑を作るとあり。凡例の終に安
永二年三月とあり。倭錢、古文錢、平錢、手替
り、外國品、平錢、大錢、脈文替り類の順序を
以て詳細に説明しあり。但し泉志所載の分は簡
に從へり。本書は泉貨鑑の粉本なりと云ふ。

黃白志

古金銀の圖を模寫せるものにて、青木氏の著に
依るものゝ如し。「三貨圖彙」凡例に見ゆ。

寶貨錄

同上

寫本なり。大日本貨幣研究會雑誌に於て三上氏
六條錢に付て論ずるに方り本書を援引し、明和
以後の編輯に係ると云へり。

本文十七枚、終に錢譜及寛永錢譜寛政四年歲次壬子春三月改正藤原貞幹と自署し、更に附錄五枚を添へ之にも藤原貞幹撰とあり。本文の西紀一七九二年に脱稿せしこと以て知る可し。天保九年戊戌孟夏尾張の香實老人の序に、我藩渡邊柳齋偶^ま藤井貞幹の著通用錢譜を得て之を刻すとあり。本書の西紀一八三八年に名古屋に於て刊行されしこと以て知る可し。

又戊戌臯月の中神弘庵の凡例には、予此錢譜の原本を家藏すること今に數十年なり。和漢泉彙、泉貨鑑、茅窓漫錄等は佳著なるも云々との旨を記す。國書解題には本書を收めず。藤原貞幹は一に藤井貞幹と云ふ。享保十七年（西紀一七三二年）京都に生れ、丸京に住す。字は子冬、一名好古、無佛齋と號し、通稱叔藏と云へり。僧門より出で、國學を好み、尤も考證に長じ、著書數種あり。寛政九年六十六歳にて歿す。墓誌に曰く、

先生姓藤原諱貞幹字子冬蒙齋其號稱藤叔藏平安人其先蓋出于吾二十一世之祖云敦敏博古最

詳典章所著有天智帝外記延曆儀式帳考圖樂制通考七種圖考古印譜竝考錢譜集古圖逸號年表書學指南好古小錄等文務簡捷而證據甚確寛政丁巳八月十九日以疾終享年六十六無嗣先生雅尚實學不好釋氏因別號無佛門人藤原以文禮葬于神學岡東足云正三位行權中納言兼右衛門督藤原朝臣資愛誌文化十年八月十九日藤原以文建之

寛永錢譜 藤原貞幹撰

一冊 謄寫版

一冊

謄寫版にて印刷せるもの、モノローグ日本之貨幣に明治三十一年出版あるものならん。抑も貞幹の寛永錢譜は前項に記せるもの、即ち通用錢譜と題して、名古屋に於て印行せるものゝ外に、寛永錢譜と題し、右と同じく一卷にして左京藤原貞幹撰と署し、不知品襍品を附錄とし、寫本にて行はれしものと、全篇を三卷に分ちて、不知品襍品を附錄とし、卷首に藤原貞幹輯源尚友校浪華芳川維堅閱と記し、且序文の如きものに於て、維堅この譜を編せしことを述べて縞庵主

人と署し、而して不知品の終に、寛政七年歲次乙卯秋日改正左京藤原貞幹源尙友とある寫本と及び正用品不知品の部を合して上中下三巻に分ち、附錄に御用錢の類を納め巻首に徵桑なる人の序文と筆畫名目の圖を加へて皇都稻垣源尙友輯と記し、終に文政十一年戊子春三月改正とあるものとの三種ありしが、この謄寫版本は貞幹原本を主として他の二種の寫本をも添へて印行し、終に貞幹の墓碑銘を掲げ、本年七月岡田松井二氏と往きて謁でたりとあれども編者の名は見えず。

和漢泉彙 芳川維堅撰

一冊

時天明元年なり。書將に過半なるに及んで、維堅諸國に遊歴して果らず。蓋弄錢の行はるゝや今より盛なるはなし。爰に於て書林某荐に予か校訂を乞て梓に鐫めんことを圖る。辭することを得ず。依て其闕たるを補ひ、珍奇許多品を益し、終に之を書肆に與ふ品題の過てるは予か罪にして芳川か與らざる所なり。同好の士之を正さば幸甚しからん」とあり。以てその天明元年(西紀一七八一年)に校訂されしを見る可し、巻首に川村直行羽積、鳥山輔昌爾熾校閱とあり。

又天明癸卯(三年)六月穀且源龍橋の序には、長夏無事侍臣示以一書閑坐閱之題日和漢泉彙浪華芳川某所著也謂師宇野宗明而覩古泉久矣頃本化蝶類苑據續化蝶類苑且述多年耳底所記師說而成編體製可觀圖形分明其所謂續化蝶類苑安永癸巳年(二年即ち西紀一七七三年)宇野翁應予需而所撰也手書而所贈在于几上今此書謂其註疏亦可矣恨翁不及見之己就泉下和漢泉貨盡于一書固弄泉之階梯賞鑑之規範也卷舒不停手同記歲月置諸坐政五年秋七月の跋に「芳川維堅泉彙を撰む。于

右云とあり。寛政四年一身田侍讀敷允中郎父の序のうちには、貞享元祿之間富山侯有弄錢之癖政教之餘以好古之情始著化蝶類苑云々とあり。

併せ記して以て参考に供す。芳川維堅俗稱を甚右衛門と云ふ浪華の人字貨潛龍齋と號す、宇野宗明より錢學を學ぶと泉家略歷に見ゆ。ライデン大學藏本には終に文化二年五月大阪高橋平助とあり。

孔方圖鑑

一冊

ライデン大學藏書本は本文十四枚中谷顧山と見えて、享保跋申春三月坂陽前川修來甫戊あり。

大阪柏原屋富士屋の版也。

珍錢圖

一冊

珍貨百錢圖

一冊

錢範

右四種は共に和漢泉彙卷末の廣告に出づ。最初

の三種は中谷顧山の選述にあらざるか。

錢範

一冊

本文八枚古文錢、手錢、偽品、不知品、大錢日本錢を掲げ、附錄三枚古錢厭勝效驗を記す。序文客の求にて祕帳より云々とあれど、著者不詳、寛政五年癸丑春三月梅里金孟舉伯選甫題あり。終に寛政五年九月江戸書林山崎金兵衛等を擧ぐライデン大學藏本なり。

奇鈔百圖 河村羽積撰

一冊

例言の末に、天明丙午孟春流石庵羽積識と署し、卷首に河林羽積撰芳川維堅校とあり。本文十七枚珍貨鑑系にして、葡萄牙、和蘭の貨幣をも擧ぐ。卷末に寛政元年酉五月とあり。同年を以て發行されしものならん。天明丙午は同六年即ち西紀一七八六年にして、寛政元年は西紀一七八九年なり。天明丙午夏四月二十八日浪華の篠應道の梅華書屋に記せる序文のうちに、至延寶元祿間富山菅侯大募天下之古錢於是始有化蝶類苑之

作……及卒藏錢於棺豈是元凱氏沈碑之遺意歟浪

華有天王寺屋某者著化蝶類集又有妹尾柳齋者著

泉譜及世寶錄……字野宗明門人有芳川維堅者獎

成其友河村羽積令抄錄之(續化蝶類苑)云々とあ

り。以て本書の由來を知る可し。國書解題が本

書を奇妙百圓となせるは奇妙なる誤と云ふ可

し。河村羽積、俗稱河内屋清右工門、大阪の人

なりと秋風園の泉家略歷に見ゆ。(古事類苑清左

工門)

本書卷末に後編手替百錢前後篇二冊、流石楊布

十五冊、中谷氏の日記を抄出せる顧山錢話五冊
の廣告見ゆ。

寛政孔方鑑 河村羽積撰

一冊

本文二十二枚、初めに流石葦羽積撰潛龍齋維堅
校と署し終りに寛政六、九月とあり。蒹葭堂青
蚨山人の序並に寛政六年五月著者の例言を添
ふ。寛政六年は西紀一七九四年なり。國書解題
には、本書を載せず。青蚨山人の序文中に、貞
元之間富山侯の古泉を翫びし旨を記す。本書は

新渡大錢譜 河村羽積撰

一冊

本文二十枚厭勝錢の圖錄なり。終りに寛政六甲
寅九月(西紀一七九四年)とあり。寛政六秋七月
流石庵羽積誌と署せる例言並に寛政甲寅秋寛
齋河世寧の序を添ふ。寛齋の序文中に羽積氏古
錢を嗜む四十年とあり。國書解題には本書を收
めず。

新撰泉譜 枯木昌綱撰

五卷 三冊

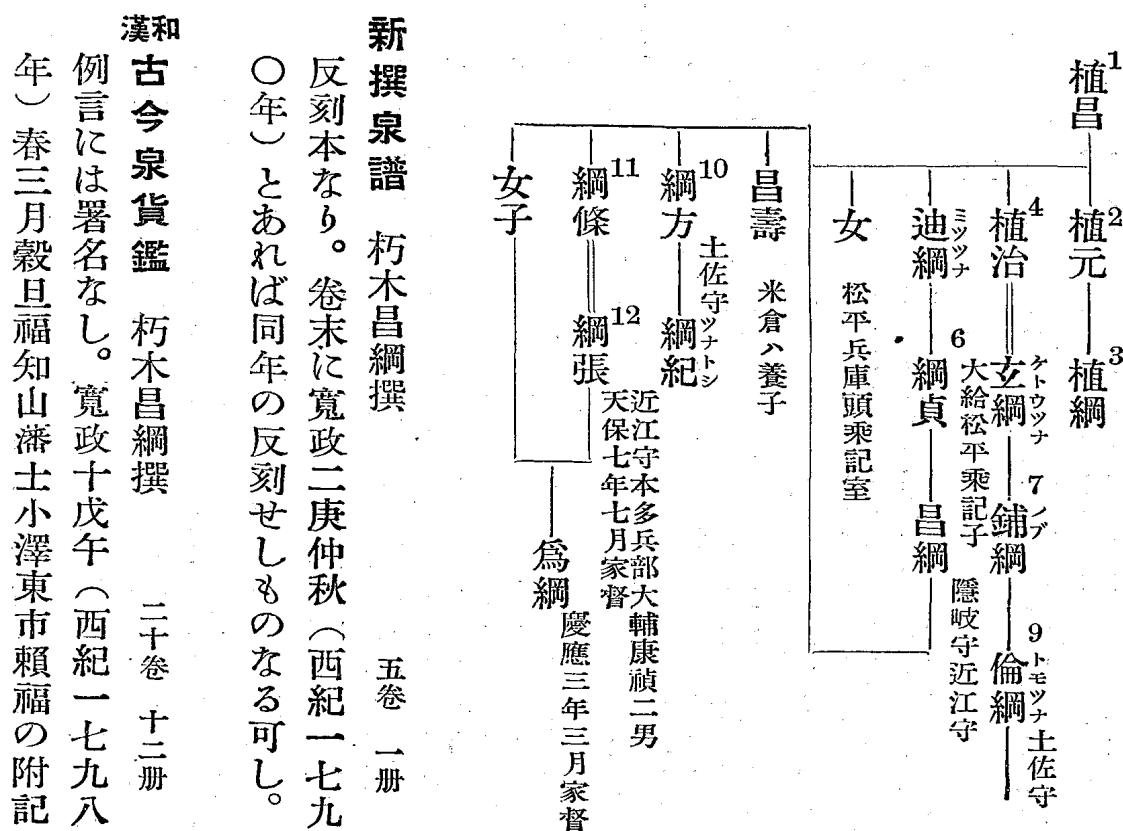
全縮漢文にして、卷一卷二に震旦國錢正用品を
卷三に震旦國錢僞品を、卷四に契丹、高麗、安
南等の錢貨を卷五に乾坤通寶以前の日本國錢を
收む。自跋には天明元年(西紀一七八一年)辛
丑春三月源龍橋識と署し、宋の洪遵が泉志に續
がんと欲してこの書を著せる旨を説けり。且右
の自跋のうちに云へるあり。本期元祿中、某侯
翫古泉、所著有化蝶類苑、後浪華賞鑑家、或著
化蝶類集、或著續化蝶類苑、述作益精矣、古錢

珍貨孔方鑑の傍系なり。

足徵也、然侯家藏書祕而不出、類集續類苑之二書末行於世、惜哉若其圖、則泉志既有傳寫鏤版之誤焉云々と。

又天明二年（西紀一七八二年）壬寅秋七月中元日北村繼元長理謹叙と署する序文の末には、近世妹尾柳齋、著世寶錄、又宇野宗明、有續化蝶類苑、可併見焉とあり。本書は天明二年の發行されし原刻本なる可し。藤井貞幹の説の書入れあり。

藩翰譜續編卷六下竝に附錄系圖に據るに、朽木昌綱は寛文九年土浦より福知山三萬二千石に轉封したる朽木植昌の裔にして、綱貞の子幼名を斧次郎又一に左門と呼び、安永六年三月十九日はじめて拜謁し、同じき九年十二月（十一月）十八日從五位下隱岐守に任せらる三十三歲（十六歲）^{イミ}とあり。昌綱、龍橋また彩雲堂とも號せり。本書を始として古泉に關する著書極めて多く、但し家臣小澤辰元をして之を出版せしめたり、又外に「泰西輿地圖說」の著あり。今左に植綱以下の系圖を掲ぐ。



あり。うちに藩主曾て新撰錢譜並に孔方圖鑑、珍貨孔方鑑、西洋錢譜等の著あるや僕私に之を梓に上せたり。其後鈴木爲棟本書の草稿を僕に示す之を見るに、新撰泉譜と異り、和文にて記されたれば、弄錢家の寶典として廣く行はるゝを得可し。乃ち私に印行すとの旨を記せり。國書解題に古今泉貨鑑十二卷朽木龍橋、寛政元年己酉の新鑄にかくるとあるは、卷數に於て記事に錯誤あるが如し。又同書に古金泉貨鑑二十卷和漢歷代の錢を列舉し、寸分重量鑄出年月等を詳記したるものなり。著作出版の年代詳ならずとあるも、和漢古今泉貨二十卷、卷十八以下は「説論」と題して一切泉貨に預りしことを雜記す。二十卷十二冊に寫傳すとあるも共に本書のことなる可し。今本書の目次を舉ぐれば、卷一、古文錢、卷二、卷三、卷四、震旦國錢、卷五、諸國錢（日本、高麗、安南、滿刺加、東蒲塞、榜葛刺、莫臥爾、波兒齊亞）卷六卷七卷八、不知年代品、卷九卷十卷十一、厭勝品、卷十二卷十三卷十四、背文錢、卷十五卷十六卷十七、近

代和錢、卷十八卷十九卷二十説論これなり。而して六・七・八と九・十・十一と十二・十三・十四と十六・十七と十九・二十とを各々合綴せるを以て十二冊にて全部を爲せり。上木の年代は次の異本に徵するに、寛政元年（西紀一七八九年）の第一版を發行せること疑ふ可からず。寛政十年には再版を發行せしか。なほ寛政七年發行校正古錢鑑大成の卷末なる廣告には彩雲堂選古今泉貨鑑十五冊とあり。第一版の十五冊を爲せしこと以て知る可し。本書卷十九説論のうちに元和寛永の頃御所に於て花蝶定めと云へることありしと云ひ傳ふ。又越中富山の前田家に於て古錢の位階定あと云ふことあり、又元綠寶永の頃泉貨を集めて鬪化蝶と名けてこれを比べるの遊あらじとて鬪化蝶の方法を詳に記し、右花蝶を鬪はしむるの説は宇野宗明が弄泉記のうちにこれありと附言しあり。

ライデン大學藏本は十二冊本にして奥附に享和四（一八〇四年）孟春江戸鳶屋重三郎とあり。

古今泉貨鑑 (和漢) 彩雲堂主人著

一冊

彩雲堂藏泉目錄

九卷 二冊

扉に寛政己酉新鑄武江書肆羣玉堂とあり。己酉は寛政元年（西紀一七八九年）なり。開卷第一に古今泉貨鑑卷之十二、背文錢上とあり、これ即朽木昌綱著和漢古今泉貨鑑の端本にして卷之十二、卷之十三（背文錢中不知品）卷之十四 背文錢下月星爪星附錄面文星類）を合して一冊せるもの、彩雲堂主人とは昌綱の號なり。帝國圖書館書名目錄に釋雲堂編寛政二年とあるは人を誤るものと云ふ可し。

西洋錢譜 枯木昌綱撰

一冊

歐洲各國の錢貨を圖し各種その圓徑、重量、厚度、彫文等を記せり、天明七年丁未（西紀一七八七年）家臣小澤頼福の序を附して出版す。

弄錢奇鑒 枯木昌綱撰

一冊

本文五十枚序三枚凡例五枚凡例には天明七年丁未秋八月小澤東市署とあり、ライデン大學藏本には天明七丁未夏四月源龍橋誌とありしと覺ゆ。享和四孟春東都葛屋發行とあり。

天明戊申十二月（戊申は八年なり。されど十二月は西紀一七八九年なる可し）江都鳩谷孔平信敏と署せる龍橋公古泉藏目序あり。冒頭に曰く浪華木村孔泰號蒹葭堂有好古之癖龍橋公求古錢也大率使孔泰探訪云々と。卷末に庚戌寛政二仲秋（西紀一七九〇年）とあり。國書解題には本書を載せず。

龍橋公古泉箱

八卷 一冊

彩雲堂藏書目錄に掲げある鳩谷孔平信敏の序を冒頭に收む。但し卷首に古泉箱目錄と題して八卷なるを以てその内容は異なれり。本書は國書解題に見えず。

本文八枚、寛政八年丙辰春三月（西紀一七九六年）の序に福知山侯之家士小澤頼福東市と署せる附説を添ふ。對泉譜なり。國書解題には本書を收めず。書名目錄に出版の年を寛政二年とな

せるは誤植なる可し。

慶應義塾藏本は本文十枚、附説に小澤の署名なし。別に寛政八年六月晦日江都鳩谷孔平信敏矢口男信龍の序あり。

大村弄錢奇鑒

ライデン大學藏本は本文十八枚序三枚寛政己未（十一年）卷三月朔自序あり。續編本文九枚、凡例は一枚にて寛政十一年秋七月と署せり。

弄錢奇鑒後編 久野克寛撰

一冊

慶應義塾藏本に據るに、寛政八年丙辰冬十月久野克寛の自序あり。本文十八枚終に久野克寶、大村成富同撰とありて後序に大村成富の寛政己未春三月朔に記せしものなり。ライデン大學藏本は大村が久野の序を省き名を削りて出版したものと思はる。

弄錢奇鑒續編 大村成富撰

一冊

本文九枚寛政十一己未秋七月大村成富識とあ

り。なほ同八月藤定慶序あり。

泉貨分量考 柄木昌綱撰

一冊

表題には「書名目錄」と同じく、古今分量考とあり。又折目には單に分量考と記せど、本文の冒頭并に古錢鑑大成の廣告には泉貨分量考とあり。本文二十四枚、寛政六年七月朔日（西紀一七九四年）江都鳩谷孔平信敏の序を收む。本書は國書解題に見えず。

改正孔方圖鑑 柄木昌綱撰

一冊

補『寛政己面新鑄和漢古今錢貨鑑の廣告に出づ』。

ライデン大學藏本、本文十四枚にて彩雲堂主人撰とあり。序説は三枚にて天明四申辰夏五月小澤辰元東市謹書と署す。天明乙巳新鑄にて書肆は大阪柏原屋江戸西村源六駿河屋ナニハ稱舖堂トーブ靜好堂を擧ぐ。慶應義塾藏本は寛政二年秋の發行也。

補珍貨孔方鑑 柄木昌綱撰

一冊

『同上』ライデン大學藏本は本文十三枚にして表

紙裏に享保己酉仲秋日浪華樋口背山誌と記し、

奥に享保十四己酉春浪華中谷顧山跋あり。大阪柏原屋富士出版なり。

船渡金銀圖說 寫本

一卷

「寫本、安南、阿蘭陀等より舶來せる金銀貨幣を圖說したるものなり。形狀、量目、舶來年月等を記せり。天明頃の作なる可し」と國書解題に見ゆ。

卷懷錢譜 西弇州著泉

一枚

寛政己酉新鑄古今泉貨鑑の廣告に見え、古錢角

力に取り組み位付をすとあり。

寶貨雋 松翠子撰

一冊

寛政二戌のとしはつ秋（西紀一七九〇年）風來人の序あり、芝居の評判記に傲ひ珍貨を組み合せて批評せしものなり。本書は國書解題に見えず。國書刊行會本徳川文藝類聚第十二評判記のうちに收む。

改^{増補}珍貨孔方圖鑒

一冊

本文十四枚天明五年九月小澤東市の序説を添ゆ。大阪柏原屋江戸西村駿河屋の發行に係る。ライデン大學の藏本なり。

正校古錢鑑大成

一冊

横綴の本にして、紙數二十枚、佐村氏の國書解題には秦より唐に至る古錢貨四百餘種の圖を纂め、その名稱、種類、發布の年曆、著作當時の通價等を記したるものなりとあれど、單に漢錢に付てのみ記載せるにあらず。畫錢、日本の十

二錢、琉球錢（世高通寶）永利手錢等をも掲ぐ。寛政七年（西紀一七九五年）六月の跋あり。本書の凡例に文字品質正しからざるもの島錢と云ひ云々とあり。以て當時島錢の性質明ならざりしを知る可し。卷末に彩雲堂選古泉學書籍の廣告を收む。書名目録には、本書を文政十年の出版となす。

百泉譜

寫本

一卷

寫本なり。和漢の古錢を公卿大夫士庶の五等に分ちて年代を記入す、卷末に錢考及び古戰祭の事等若干條を雜記す。一名を「和華泉鑑」と云ふ。

靜好堂所藏古金圖式

寫本

一冊

寫本なり。奥書に右古金圖者松岡辰方藏本乞受模寫總數百十一種云々寛政元年八月十五日藤原忠寄とあり。次に右古金九拾餘枚者某の候多年所藏也しを今年有故三谷三九郎へ遣し通用金と替られし由也云々寛政元年秋九月淡齋と記す。寛政元年は西紀一七八九年なり。

古今古金正圖

寫本

一卷

古今古錢價附

紙數九枚にして、寛政八年丙辰（西紀一七九六年）二月名古屋本町九丁目日本屋久兵衛の出版せるものなり。本書は國書解題に見えず。

字替錢古錢價附

一冊

上は表紙とも九枚下は同じく五枚後編二枚寛政五年丑六月大阪書肅稱觥堂小雅堂興文堂發行、奥附に紀州若山細工町古錢賣買所帶屋伊兵衛とあり。ライデン大學藏本なり。慶應義塾藏本上六枚下六枚。

古今古錢價錄

(改正)

一冊

寫本にして、古金の圖を掲げ、更に二百七十六箇の古金目錄を列舉す。寛政四年壬子六月（西紀一七九二年）の奥書に「右載る所の古金數箇は都下一豪戸の藏貯するところなり。河合正之

一日その形狀及び數員を摹するものを持し來て余に示す。卷を展べ一覽するに昆陽子の金銀譜中に載せざるもの若干なれば則ちその目錄及び昆陽子の書に載せざる所のものを謄す」云々とあり。

に書肆尾州名古屋本町通七丁目永樂屋東四郎、

又本文の冒頭に新板古錢價附竝番附キとあり。

改正

本文十枚、終に寛政十一年己未（西紀一七九九
年）初春と書す。

錢幣考遺 久野克寛撰

一冊

寛政十一歲己未初冬江戸書林靜好堂と表紙にあ
り。上下各九枚何れも末に書林江戸京橋銀座四
丁目駿河屋重五郎とあり。

皇朝錢 久野克寛撰

一冊

本文七枚卷頭に寛政十年（西紀一七九八年）歲次
戊午七月穀且東都立龜齋克寛と置せる自序を添
へ、終に寛政十一年己未九月（西紀一七九九年）
刻とあり。國書解題には本書を載せず。「和同十
八開基一萬年十二神功八隆平十六富壽九承和五
長年四饒益四貞觀三寬平五延喜三乾元三永樂一
天正二文祿一度長四元和三種を掲ぐ。克寛又靜
好堂と稱す、卷尾に皇朝錢譜二冊近刻の豫告あ
り」。

版再 袖寶古錢譜

日本古泉學書目解題（田中）

慶應義塾藏本、京都藤井文政堂出版「珍錢圖錄」
は本書に同じ。余の藏せる本書卷頭の題言は「珍
錢奇品圖錄」立龜齋の序也。

一枚

（三三九） 一一五

包紙に懷寶珍錢鑒とあり。一枚摺にて表裏合せて百十四を圖す。江戸傭書橋本徳瓶再圖とあり。文化十三年丙午正月三刻發行江戸馬喰町二丁目角西村屋興八梓とあり。ランデン大學藏本なり。

珍錢圖錄

一冊

扉に大村成富撰珍錢圖錄一名錢幣圖象天保戊戌再版文江堂梓とあれど、例言以下本文は即ち久野克寛の錢幣考遺その儘なり。戊戌は天保九年（西紀一八三八年）に當る。國書解題に珍藏圖錄とあるは本書のことなる可し。（其中堂發賣書目第廿四號に價十五錢と見ゆ）

珍錢奇品圖錄 大村成富撰

一冊

文化十四年（西紀一八一七年）丁丑六月望日付の凡例并に自序あり。自序に古泉を嗜むこと三十年去る享和中播陽公の命を奉じて珍錢奇品圖錄の一書を編しその草稿を献ずその後文化の始まり辛未の歲（文化八年即ち西紀一八一一年）まで諸國を遊歴して調査を繼續したりとの意を記

せり。享和は西紀一八〇一年より三年までの年號なり。本文には古文錢平錢折二錢大錢不知品厭勝品奇品六條錢の各種に分ちて圖錄す、六條錢に付ては續蝶類苑に文明の頃京都六條川原にて鑄るとありと註す。自跋には文化丁丑秋東都龍湖載陽堂大村成富と署す。その他文化十四年攝州吳鄉荒木續三郎方賦の序、文化丁丑仲秋立龜齋主人（久野克寛）の序、方圓跋等あり。國書解題に據るに、嘉永六年（西紀一八五三年）江戸に補刻すと云ふ。立龜齋主人の序に孔方鑑珍貨鑑の二編は、享保年中谷顧山著す所なり。天明年龍橋公二鑑を改正せらる。文化丙子の歲狩谷氏大村成富と校讎し、孔方鑑を復増補して梓木既になる。間成富一書を編し、題して珍錢奇品圖錄と云ふ。丁丑の秋に迨んで鏤刻漸く竣を告ぐ（節略とあり。掲げて参考に供す。扉に三井親孝書と署せり。明治新撰泉譜の體裁は本書に倣ひし處あり。卷末に原品所藏者を示したる即是なほ本書には新校正孔方圖鑑原品の所藏者をも錄す。要するに本書は、珍貨鑑の系統を繼

げるものなり。

皇國通貨考 狩谷望之撰

秋風園の泉家略歴に狩谷掖齋皇國通貨考を著はし、珍を寶の省字となすの説ありと見ゆ。又この記事を收めたる大日本貨幣研究會雜誌のうち、に狩谷望之貨幣通考を著すとも見えたり。狩谷望之は書林青藤堂高橋與惣兵衛の男にして通稱津輕屋三右衛門、字を郷雲と云ひ、掖齋また蟬翁と號せり、天保六年乙未閏七月四日享年六十にて歿す。下谷天龍寺に葬る。

寛政孔方鑑 河村羽積撰

本文二十二枚青蚨山人序、寛政六年五月流石庵羽積自序あり。文化二年五月大阪書林高橋平助の出版に係る。ライデン大學藏本なり。

斯校正孔方圖撰 狩谷懷之撰

一册

本文二十枚にして古文錢（隋以前の通貨）平錢（開元通寶以後）僭偽品、外國品、不知品、折二

錢（當一錢）、大錢、日本錢、日本繪錢、厭勝品の各種を列舉す。文化十二年（西紀一八一五年）嘉平月二日と署せる著者の例言あり。うちに我邦錢書を刻すること中谷顧山が孔方鑑に始まるもあり。狩谷懷之は望之掖齋の男にして、江戸淺草に住す。圖書館の書名目錄に本書を以て狩谷望之著となせるは誤植なる可し。

慶應義塾藏本書の末に、本書の末に嗣出書目として新校正珍貨圖鑑一卷、新校正寛永錢譜三卷、諸家藏泉圖譜二卷、泉志考證二卷、皇國幣貨通考五卷を掲ぐ末の二種は家君所著とありて、考證泉志は津逮本學津本を校合せしもの也。

對泉譜 村田元成撰

二卷

秋風園の泉家略歴に好田元成は文化年間の人、文樓と號し、又大かぼちやと云ふ。江戸吉原大文字樓の主人、對泉譜二卷を著すとあり。ライデン大學に本書の前集一冊を藏す。本文十六枚、序四枚、序は文化甲戌春正月若水館主人識と見え、奥附には東都北里文樓田元成同龍湖載陽堂大

村成富同撰とあり。卷頭に文化十一甲戌年孟春東都北里文樓田元成述。慶應義塾に後集一冊を藏す。本文十七枚、文化乙亥夏四月玄龜齋主人序のうちに、同好田元成とあれば好田氏にはあらず。卷頭に宋朝對泉譜とあり。

鳶魚の加保茶代記に、初代加保茶市兵衛は伊勢の神戸の林田某の子にて始めて娼家になりて大文字屋と云ふ。二世加保茶元成は初代が嗣子なかりし故、姉の娘を養ひ、岡本長兵衛が次男を婿に取りたる也。假名世説に後の市兵衛狂名を加保茶元成と云へりとあり。初代は晩年に一女を挙げしより、家を之に譲り、隠居して四平と云ふ。文政十一年六月十二日、七十五歳にて歿す。徳保元成禪門と法名す。(日本及日本人六六一號) 鳶魚は四世を文樓と云へど、この二世即ち文樓也。名人忌辰錄に初代は勢州河曲郡上箕田村農校本某の男也とあり。

符合泉志 山田孔章撰
宋代の錢を集めて眞篆を對比せる書なり。文政

十年丁亥(西紀一八二七年)仲眞の自序。田保眞の序等ありて、初編は十年夏二編は十一年春三編は十二年夏の發行にて、三の奥附に四編近刻とあれど、發行に及ばざりしが如し。秋風園の泉家略歷に山田孔章近江の人、一豊舎と號す文政年間對錢を研究し符合泉志三卷を著すとあり。國書解題に本書を豊舎山孔章撰とせるは一を脱し山の山田の略なるに思ひ及ばざりし誤なる可く、モンロー日本之貨幣に文化年度發行とあるも亦誤植か。山田孔章通稱を小兵衛と云ふ。慶應義塾藏本に據るに、自序の末に、張州琵琶橋西一豐舎其所と署しあれば、泉貨略歷に近江人とあるは誤なり。發行書肆は名古屋の永樂堂東四郎等也。自叙のうちに「難波の安田面唐と云ふ人、はじめて宋朝の錢は眞篆對する物有と云ふを見出したり。戊年寛政六年の秋の頃、東都へ下れる時、此國にも暫くとゞまりて居て、對錢の趣を諭し示しけるをまのあたり傳へ受て、今まで存へ殘れる者は、唯蕭然庵のあるじとやつかれとのみ也。されば實に對泉の社と云

ふは、此安田ぬにて、次に東都にて出たる弄
錢奇鑒と對泉の書の初めなりける。其後文化年
中に東都文字樓主人對泉譜前後の集を著してよ
り、世に普くひろがりて對錢をもてはやす事と
はなれる也。凡から國に錢を鑄は其年號に元寶
通寶等の二字を加へて錫にて錢の形を彫る。是
を母錢と云ふ。その母錢を鑄うつしたる種錢と
云ふ。其種錢を真篆合せて百錢づゝを鑄りなん
これによりて數万貫文の錢を鑄れども、文字筆
法及錢質まで毫も差ふ事なし。はた手替りの錢
の面背輪郭異なるものいと多きは州郡各改元こと
に同じ錢を鑄るに其國々にて母錢を彫り用ふる
故なれば也。おのれ先に木田篤風齋主人とはか
りて兒童の心得易からむ書をゑらみ物せんと契
りしかいくほとなく此人もうせねれば云々」と
あり。

金銀圖錄 近藤守重撰

七卷 七冊

古來金銀の形製刻鑿等を圖錄したるもの。凡例
には「寶貨通考」三十冊、提要三冊に添へて著

し先づ之を版刻せりと云ふ。此書に收むる所は
卷一、二に正用品、卷三に甲州品、卷四に各國
品、卷五に尙古品、卷六に玩賞品總計五百三
七品を收め、卷七を附言とす。文化七年庚午（西
紀一八一〇年）五月朔日の著者の凡例あり。近
藤守重は明和八年辛卯（西紀一七七一年）に生
れ、通稱は重藏、號を正齋と云ふ。寛政十年勘
定奉行中川飛驒守に從ひ、蝦夷に行き、擇捉に
渡り、我國の標柱を立てゝ歸る。文化中書物奉
行に任せられしが、晩年執政と合はず。大溝藩
分部左京亮光寧に預けらる。文政十二年己丑（西
紀一八二九年）六月歿せり。年五十九。

錢錄

七卷

近藤正齋全集第三に收めたる本書の原本は茨城
縣士族近藏昂藏の所藏せる守重の藁本にして、
大學史料編纂掛の藏本なり。卷首に近藤守重撰
狩谷懷之參纂と署し、先づ皇朝十二錢より筆を
起し、寛永錢に至るまで通貨物價等に關する古
記錄の記事を抄出しあり。なほ附錄には渡唐錢

遣唐錢のことも餘さず、普通古泉家の撰述とは
大にその趣を異にせり。

中外錢史 穂井田忠友撰

二卷二冊

天保元年十二月二十八日（西紀一八三一年）橋成
にとあり。天保二年正月（西紀一八三一年）土佐
守梶野某の跋を添へなれば、同年の出版なる可
し。目次には全部五卷とあれども、卷一金事三
章と卷二中華古錢とを上木せるのみ。目錄に據
るに卷三は外蕃古錢、卷四是中華新錢（天正通
寶以下）卷五は外蕃新錢に宛てたり。著者が日
本を指して中華と呼びつゝ本書を漢文にて記せ
るは滑稽の極なり。國書解題には本書を載せず。
穂井田忠友は駿河の人、後參河に移る、御代官
手附小原雄英の長男にして、大江氏なり。初め
久閒次郎と稱し、穂井田鞍負と改め、後に縲助
と改め晚年穂北源助と云ひ、蓼義と號す。平田
篤胤に就て國學を修め、又京師に往き、香川景
樹に從て和歌を學び、その技に長ず。天保四年
(西紀一八三三年)九月十九日、五十六歳にて歿

文昌堂錢譜 青山延干撰

寫本 五卷三冊

す。

漢文にして寫本なり。分ちて卷一、正品卷二、
外國正品卷三、同上（但開元通寶以後）、卷四、
同上（但宋元通寶以後）、卷五、外國偽品外國正
品外國厭勝品西洋諸國錢の五卷となす。附錄に
延干の古泉歌、その長子延光の正宗寺古錢記を
收む。自序には文政十一戊子（西紀一八二八年）
五月彰考館總裁青山延干と署し、外に副總裁男
延光の後序并に天保丁酉七夕前一日觀田街曬書
亭に於て記せる三男延之の後序あり。又卷末に
天保十五、四月三日寫畢延之、弘化二、九月廿
八日打畢延壽と署せり、延壽は延干の末子なり。
青山延干は水戸藩の文學たり。通稱量介、字は
子世、雲龍、また拙齋と號す。水戸の修史に與
て功多く、神祇志、禮義志輿服志等を撰み、又
皇朝史略東藩文献志等の著あり、天保十四年（西
紀一八四三年）九月六日病歿す。年六十八。

和漢古今稀世泉譜 中川泉壽

三冊

れしことを。

卷首、初輯、貳輯の三冊より成る。卷首贅言のうちに前編總て安政二年まで次編は安政三、四、五の間に得るに隨て摹刻すと見ゆ。貳輯一に追

選圖鑑と稱するは蓋しが爲なり。初輯の末

に安政五戊午年三月朔日積古亭に於ける中谷顧山翁百廿五回追悼古錢展觀彙輯中逸品勝絕品目別記四枚を添へ、貳輯の末に中谷顧山弄錢記并に附錄弄錢祕傳書を抄出す。うちに古錢を受すること、皇朝にては東山殿の領より弄ぶと雖も書を残さざればその傳傳はらず。その後東福門院殿加州前田大藏大輔正甫君丹州福知山朽未隱岐守殿好み給ふより錢道世に詳しくなれり云々と見ゆ。而して卷首の終末には安政六年己未春

三月中川積古齋泉壽、貳輯の終末には安政二年乙卯冬十二月文林堂泉壽と署し、更に其廣告の末には安政六年己未三月發行古錢鑒定賈易肆寺町通佛光寺上に角中川藤四郎と記す。知る可し、中川泉壽が京都の人にして西紀一八五五年に本書の第一輯成り同六〇年に至りて全部の發行さ

慶應義塾藏本 和漢古錢圖錄二冊は、明治三四年

に本書を覆刻せしものと思はる。

增補再校安孔方圖鑑 中川泉壽撰

一冊

積古齋和漢稀世泉譜卷首の廣告に本書を掲げ、且その廣告文中に孔方圖鑑は中谷顧山享保年間始て開刻す。而して後五十歳相距て天明年丹州福知山の城主朽木彩雲侯、之を改正し給ふ。而して亦三年相後れて文化の末年大村成富、之を増補改刻して號して新校正孔方圖鑑と云ふとあり。本書も安政六年（西紀一八五九年）の出版なる可し。

增補再校安政珍貨圖錄 中川泉壽撰

一冊

和漢稀世泉譜の廣告に見ゆ。

洋貨圖錄 松浦武四郎撰

三卷

西洋各國の貨幣を纂集しその眞形を摸撮し、その秤量を詳記し、傍ら我が國當時の價值を記し

その品位を比較したるものなり。末に三十有餘國の貨品を表掲し紀年重量紙雜等を明記す。加賀の人田中善の補訂せるところ、慶應二年丙寅（西紀一八六六年）同人の序あり。松浦武四郎（或は竹四郎又多氣志樓と書く）は尾張名古屋の人なり。著す所蝦夷年代記、化蝦夷日誌等數部あり。明治十七八年の交歿す。

洋貨圖錄初篇

三卷の内 一卷

加賀小幡氏藏、明治四年出版淺倉屋にて見たり。

西洋錢譜 松園主人撰

一卷

天明七年出版の同名の書に收めたる貨幣のみを圖して國名を添へたるもの也。

洋貨圖錄 松園主人撰

一卷

安政己未初冬梅園主人序あり。永福堂藏版、同
一書ならん。

貨幣祕錄 (溫知叢書第五編)

解題に記事天保十三年に止るを以て、水野越前守勘定所に命じて篇述せしめたるものならんとあり。金銀座設立以來のこと記す。

世寶古傳錄 倉田聖純撰

寫本

一冊

寫本にして、僅に十三枚、卷末に天保十三年壬寅夏日倉田耕之進聖純識とあり。

甲貨年錄

寫本

三冊

寫本にして、甲金のことを記せしものなり。

筋金砂金小判に仕立方仕法大概書

寫本 一冊

筋銀上澄銀箔仕様書同手續書其他銀座に關する書類 上澄方留本

寫本

六冊

金銀模形集 (兩替屋控本)

寫本

一冊

四分一錢立鑄法

寫本

一冊

古今錢考

寫本

一冊

大日本貨幣史

吉田賢輔等撰

四十六冊

漢文にして寫本なり。著作者の氏名并に著作の時代明ならず。古文、大唐、五代、大宋、大元、大明、僭僞、北虜、高麗、日本、蠻夷、刀布品、奇錢品、末考の十四節に分てり。本書は國書解題に見えず。

古泉考

「寫本、和漢古來の錢貨を説明考證したるものなり、著作の年月明ならず」と國書解題に見ゆ。

一卷

古錢積年背文考

寫本

寫本にして、明和三年丙戌以來歴代古錢の年數を考へ、更に背文考、近代和錢考等を掲げたり。

貨幣雜記

寫本

一冊

寫本にして、我が古來慶應年中に至るまでの貨幣に關する雜記なり。卷頭に太政官の貨幣取調書を掲げ、更に外國金銀貨幣表を示す。

金譜

日本政府撰

一冊

明治元年の發行に係る。

貨幣精圖

大藏省紙幣局編

一冊

大日本貨幣史参考

吉田賢輔等撰

五冊

卷一より卷十三までを三貨部。卷十四より卷十九までを紙幣部となし、外に三貨部附錄十三卷、紙幣部附錄藩札部十三卷あり。卷首とも總計四十六冊、明治九年四月大藏卿大隈重信の序あり。卷一より卷十三までは、明治九年四月廿七日、藩札部は明治十六年十一月廿二日の出狀に係る。

新貨條例 大藏省撰

一冊

十月伊豫星山尾崎正の跋を收む。

明治新撰泉譜 成島柳北 守田治兵衛撰 三卷 三冊

第一集第二集は全然柳北の著述に係る。第一集の出版されしは、明治十五年五月にして、明治庚辰夏日寧海塚本明毅の序並に同十三年庚辰首夏松菊莊主人の自から識せる例言あり。例言のうちに、朽木龍橋、狩谷掖齋を推重し、孔方圖鑑、珍錢圖錄錢幣考遺等の諸書を改刪取捨して斯譜を編すと見ゆ。第二集は明治十八年四月の出版に係り明治十七年十月信夫恕軒の序あり。

「和同開跡」は和同開寶と讀むかた正しかる可

し。同は銅の略なれば跡も亦寶の省文なりと考ふ。開珍と云ふは妥當ならざる語なり。此に記して博雅に質す」と明治十七年二月を以て記せる例言一枚のうらに出づ。第三集は柳北の遺稿にして守田寶丹、今井風山軒と謀り明治二十二年十二月に發行す、同十一月重野成齋の序、同

明治四年の發行に係る。

古錢鑑識訓蒙 成島柳北撰

三卷 一冊

洋本にして、明治十七年甲申十一月湖山老人の序あり。明治三十一年八月の出版に係る。但しモンロー日本之貨幣には、明治十七年の發行とあれば、本書はその再版か。一卷の四頁に、先輩の島錢と稱するは、支那の邊境に於て蠻民蛋丁の私鑄せしものとあるは、如何かなれど、同七頁に「和同開跡は開寶と讀む可し。跡は寶の略、同は銅の略と對するなり。開珍にては意味を爲さず陋極まれり」とあるは柳北仙史の卓見と云ふ可し。

古泉大全 今井貞吉撰

三十八冊

卷首を乾坤の二冊に分ち、乾には明治十八年五月細川十洲(潤)居士序に次ぎて凡例並に十七枚を占むる古錢鑑識備考として寛永錢に關する圖說を收め、坤には目錄と附言とを載せ終に明治十九年冬至日磐鴻今井貞吉海南風山軒に記すと

あり。叢本文に入りて卷一より卷九までは、隋

以前の支那歴代錢、卷十は皇朝古錢及近鑄附近代繪錢、卷十一より卷二十九までは唐以後清までの支那歴代錢、卷三十より卷三十二までは厭勝品、卷三十三より卷三十五までは安南國錢、卷三十六は朝鮮國錢を説けり。而して沖繩錢は卷十八北宋哲宗の部に附載し安南の部には單に

和漢古錢鑑 安部定橋撰
明治二十六年五月（西紀一八九三年）の自序あり。著者は仙臺の人なり。扉には松洲生編輯翠松軒藏版とあり。卷末に明治二十六年九月發行と見えたり。

三貨圖彙 草間直方撰

四十冊

今井貞吉編輯と記さずして傍に塚本明毅年表と署せり。且安南朝鮮の分は續輯と題す。終に明治二十一年二月出版とあり。附言に、「如刀布地名沿革專用李匯所注而吾友尾崎星山子校正之、泉圖則皆自刊刻、始於明治十四年至十九年而成云々とあり。又古泉匯正編五千三點の内五百餘品を除き、更に九千三百五餘點を増加して古錢大全と名け合計一萬三千八百五十四品なりとあり」。

風山軒泉話 今井貞吉撰

明治二十二年六月發行風俗畫報第五號より附錄として登載し、第二十九號まで繼續せり。

藤かげのり、寛政己未孟春皆川愿の跋等あり。

卷頭に收めたる文化十二年正月十一日附「三賀圖彙編輯に係る趣意書」のうちに『既に圖彙の本先年京都皆川先生見申度由金山氏を以て被仰越遣し申候處諸生共先方にて皆寫取作者を替え題號を改め、京地本屋へ一部代金二歩づゝにて賣出し申候全く犬骨折て鷹に取らるゝ俚諺の通りに候』とあり。草間直方俗稱伊助子徳と號する父を昌樹と云ふ。鴻池屋山中氏の分家なり。

凡例に此書三貨圖彙と名くる所以は金銀錢古今通行沿革の跡を集め兼てその圖を記すに依て也とあり。同く凡例のうちに、此書は寛政五六年の頃筆をとり初しに、其後物價物論の狀態愚考に向ふ〇〇にあり、依て文化年に至ては其時の事實を以て記せるやうに見ゆれども、聊かしかるにあらず。寔に天然にして不思議と云ふ可しと見ゆ。

畫錢譜 馬島杏雨撰

二卷 二冊

扉に馬島杏雨編龜田一恕校食眞亭藏版、奥附に神田區千代田町八番地馬島瑞園とあり。上巻は明治三十二年六月の發行にして、同二月杏雨老人馬島芳の自序を載せ、下巻は同七月の發行にして己亥初夏江東八福田舍不肅の序を掲ぐ。

寛永泉志 榎本文城三上香哉撰

三冊

撰者は寛永泉研究會の理事にして、凡例に據るに、浪華の錢商芳川維堅が寛政七年の秋上京して、藤源二氏の愛錢を借りえて、掲摸せしと云ふ。稿本寛永錢譜を原本となして、本書を編めるよしにて、之を分ちて七巻となし、第一巻に

新撰寛永泉譜

龜田一恕、中川近禮、榎本文城撰 二冊

は寛永三年と同十三年とに開設せられたる錢坐の錢貨、第二には寛永十四年と明暦年間に開設せられたる錢坐の錢貨、第三卷には寛文より享保年間に至るの錢貨、第四卷には元文年間の錢貨、第五卷には寛保以後の錢貨、第六卷には當四錢貨、第七卷には御用錢、祝賀錢、私鑄錢備考錢の類を載するの豫定なりとあり。第一卷は守田寶丹の題辭、根岸武香氏の序文を添へて明治三十年十一月十二日に發行、而して第二卷は明治三十一年九月二十日に發行、第三卷は明治三十四年十一月五日に發行されたり。第二卷には明治三十一年一月八日杏雨老人芳の題詩、並に同二月二十日松堂(原)宏平の序、第三卷には明治三十四年秋日碧海老人内藤恥叟の序を掲ぐ。因に三上香哉は花林塔、榎本文城は進而堂と號す。

皇朝泉志 榎本文城撰

一冊

明治三十四年五月十五日の發行に係る。天武帝の時發行の錢貨より村上帝の時發行の錢貨に至

は寛永三年と同十三年とに開設せられたる錢坐の錢貨、第二には寛永十四年と明暦年間に開設せられたる錢坐の錢貨、第三卷には寛文より享保年間に至るの錢貨、第四卷には元文年間の錢貨、第五卷には寛保以後の錢貨、第六卷には當四錢貨、第七卷には御用錢、祝賀錢、私鑄錢備考錢の類を載するの豫定なりとあり。第一卷は守田寶丹の題辭、根岸武香氏の序文を添へて明治三十年十一月十二日に發行、而して第二卷は明治三十一年九月二十日に發行、第三卷は明治三十四年十一月五日に發行されたり。第二卷には明治三十一年一月八日杏雨老人芳の題詩、並に同二月二十日松堂(原)宏平の序、第三卷には明治三十四年秋日碧海老人内藤恥叟の序を掲ぐ。因に三上香哉は花林塔、榎本文城は進而堂と號す。

古事類苑 神宮司廳編

(二二二) 一二七

金銀貨志 榎本文城撰

六卷 三冊

卷一卷二の合卷は明治三十五年九月二十五日、卷三卷四の合卷は明治三十六年十月十七日を以て發行せらる。日本金銀貨の形質沿革を發行の年月に從ひて記したものなり。

日本の貨幣 榎本文城撰

一冊

明治三十六年二月二十三日の發行に係る。洋本にして七十六頁あり。卷頭に同年春日編者のはしがきを添ふ。

吹塵錄 附餘錄 勝安房撰

三冊

洋本大冊にして明治二十三年の出版に係る。時代財政史の史料を蒐集せるものにして第九卷より第二十卷までを貨幣の部、第二十一卷を貨幣拾遺及金銀銅朱の部となす。

泉貨稱量部あり、一冊を爲す。

歐洲貨幣史 信夫淳平譯

一冊

本書は洋本にして、明治三十五年の出版なり。その附錄として譯者の撰述に係る日本貨幣史を收む。

第五版古錢價格圖鑑

一冊

明治四十三年發行。

畫錢圖譜

一冊

明治四十三年發行。

新撰通貨略考 鶴田信一播

一冊

明治四十二年發行。

東京古錢會報告

三冊

守田寶丹の報告發行の趣旨に、維新以來古泉研究の沿革を説けるが之に據るに明治八年宇都宮氏先考追弔に際して古泉會を催しその出品を泉

寛永錢研究會雜誌

支那國古紙幣 英文 東洋古錢學叢書第一卷 一冊
右三種何れも横濱古泉會々長エッチ・エー・ラム
スデン氏の著述なり。

朝鮮國繪錢 英文

一冊

外國古錢月報 邦文

六冊

譜とせしことあり。この頃成島柳北東京日旦會を越し毎月泉譜を作り明治十年より明治十九年まで繼續せり。古泉會は明治二十六二月東京に起るとあり。但しこの報告は月刊にして明治二十八年九月の創刊に係り明治三十年二月第十八號より東京古錢會雜誌と改題せり、圖書館本は同十二月發行第二十八號までを合綴して三冊となせり。本誌創刊の當時東京古泉會事務所は神田區田代町十番地にありしが後に之を守田寶丹方に移せり。

明治二十九年十月發行東京古錢會報告第十四號

横濱古泉小集

に、榎本文四郎三上母子太郎の名を以て、寛永
鑄研究會設立の廣告あり。同會は事務所を日本
橋區濱町二丁目十一番地榎本に置き、翌年四月
十日第一大會を開きしが、この機關雜誌は月刊

にして、創立早々明治二十九年十一月十日を以

て第一號を發行せり。かくて同會は常會を開く
こと三十八回、大會を開くこと七回、第四十五
號に至るまで本誌を發行せしが、次で會の名稱
を大日本貨幣研究會と改め、機關雜誌をも改題
せり。

大日本貨幣研究會雜誌

本誌は明治三十三年九月一日發行の分より寛永
錢研究會雜誌の改稱せるものにして、新に第一
號より數へ明治三十七年六月第四十五號迄發行
せしが戰事多端の故を以て爾來休刊せり。圖書
館本は明治三十六年十二月發行第四十號までを
三冊に合綴せり。

微松泉會場模集

東京古錢會雜誌第十五號に横濱古錢會の廣告あ
り。本誌はその機關にして、明治三十年一月頃
より發行せるか。なほ外に横濱古泉會衆評泉譜
を題するものあり。

微松泉會は備後松永に於ける弄錢家の會合な
り。明治二十九年より明治四十一年まで發行。
松永に長壽堂高橋圭介氏あり遺愛の古錢は三上
氏の有に歸す。

平安化蝶會泉帖

第十號明治三十六年五月發行。

橫濱古泉大會

横濱古泉會場模集
明治二十九年より同四十二年までに十一冊と別
冊二冊を頒つ。

大阪古泉會雜誌

東京古泉協會雜誌

明治三十二年七月の創立に係り、翌年一月東京

行せり。

古泉協會と改稱す。大正二年十一月第百回紀念
大會を開會雜誌壹百號を發行す。明治三十六年

十一月有樂町林靜男氏方に事務所を移す夫れ迄
は丸山新町龜田一恕氏方。第七號明治三十四年

一月。百六回大正三年十一月十五日。

千代古泉圖鑑

仙臺古泉會

筑紫化蝶會撮模集

故田中萃一郎

本篇は故田中萃一郎博士の遺稿の一である。
遺稿整理中筐底より發見せるもの、古錢研究の
一資料として、遺族の承認を経てこゝに掲載す
るものである。(編者識)